

東京経済大学 学内G Pプロジェクト (学長プロジェクト)



撮影：図書部員 壱

装画：編集長 おおたけ

発行：東京経済大学 図書部

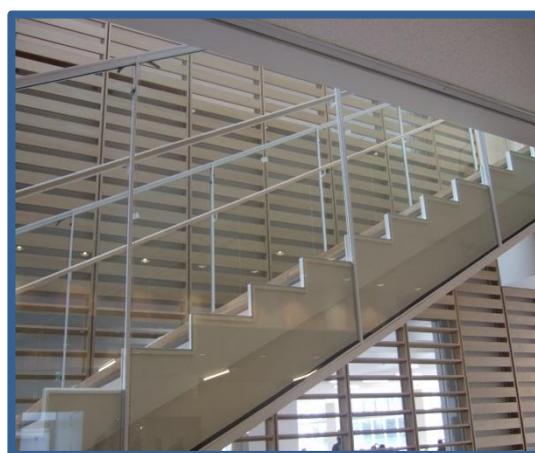
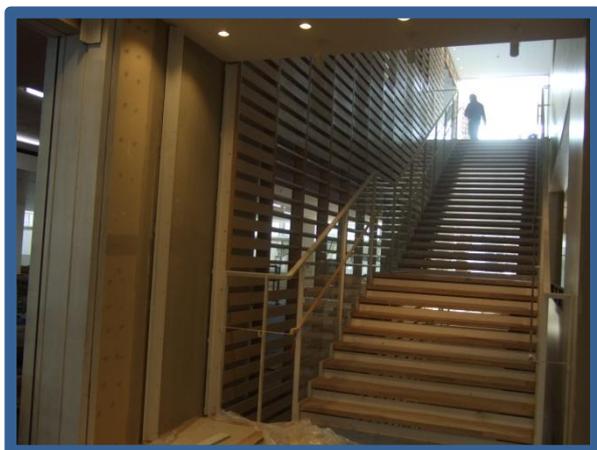
目次

新図書館に潜入！	_____	2
他大学図書館見学	_____	5
図書館フォトコンテスト	_____	12
読書案内	_____	14
宮崎駿の妄想ノート『泥まみれの虎』	_____	15
<評論> 娯楽小説の愉しみ	_____	16
東経大図書館について	_____	20
編集余滴	_____	21
図書館からのお知らせ	_____	21

新図書館に潜入！

12月某日、新図書館の工事現場にお邪魔してきました！

この新図書館は地下1階から地上4階まである建物です。自由に閲覧できるスペースが広く、各階にカウンターが作られています。また、自分で貸し出し手続きのできる機械や自動で地下の書庫から本を持ってきてくれる機械も導入される予定となっており、今の図書館以上に利用しやすくなります。今回は新図書館でも新しく作られるスペースや普段入ることのできないスペースを中心に紹介していきます！



玄関を入ってすぐに見える正面階段です。左右はガラス張りになっており、開放感いっぱいです。



2・3階に作られる閲覧室です。床の白い部分に本棚が設置されます

こちらにも2・3階に作られた個人閲覧室です。個室になっており、一人で集中したいときに最適です。



3階にはPCスペース、4階にはプレゼンテーションルームが用意され、写真のように大きな窓から太陽の光を取り込み、とても明るいです。

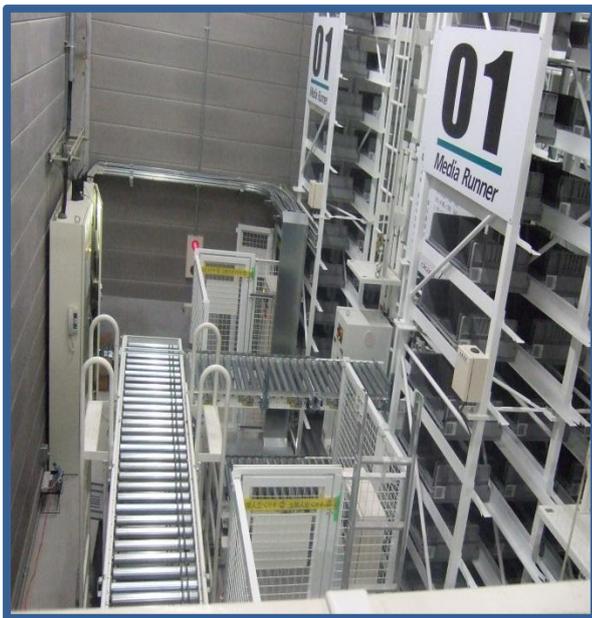
こちらはキャレルスペース（個人用閲覧席）です。やはり、上の写真と同じように、大きな窓から光が入り、とても明るい作りになっています。





↑集密書架（地下）

これらの写真は地下の集密書架と、自動書庫の内部です。集密書架に20万冊、自動書庫に45万冊の蔵書を保管することができます。また、左下の写真は最終的に地上のカウンター（右下写真）につながっており、書庫から自動で借りたい本を取り出してくれます。



↑自動書庫（地下）



↑自動書庫（カウンター）

今回紹介したもののみならず、新図書館には新しい試みや部屋の設置などがされています。また、空調設備や階段のライトなど様々な場所にデザイナーさんのこだわりがちりばめられており、現在の図書館のイメージを一新するような雰囲気 of 図書館となっていました。さらに、新図書館は5号館2階ともつながるので、今まで以上に立ち寄りやすい施設となります。

ぜひ、来年の春に完成する新図書館をお楽しみに♪

（図書部員 壱）

他大学図書館見学

新図書館が間もなく完成します。

自動書庫など新しい設備が整い、ますます利用しやすくなることでしょう。

今回はそれにちなみ、他大学の図書館をご紹介します。

多摩アカデミックコンソーシアム(TAC)は、多摩地区にある6大学で構成された大学協力機構です。国際基督教大学、武蔵野美術大学、津田塾大学、国立音楽大学、本学、そして2013年11月より東京外国語大学が加盟しました(東京外国語大学は2014年1月より相互利用開始)。本学の学生は「TAC学生」として各大学の図書館を利用することが可能です。

これらの大学図書館にはどのような特色があり、どのように利用されているのでしょうか。教育研究に資する大学図書館は、その大学の顔であるといえます。今回は国際基督教大学、武蔵野美術大学、津田塾大学の三大学を見学してきました。

(編集長 おおたけ)

国際基督教大学

<大学の特徴>

2013年で開学60周年。リベラルアーツ教育(自分の関心分野を見極めた後、3年時になる前の段階でメジャーを決定)と、日本語と英語を公用語とするバイリンガリズム、世界各国の大学と互換可能な諸制度(厳格なGPA制や3学期制など)が特徴です。世界各地から教員・留学生が集まっています。略称は「ICU」(International Christian University)です。

キャンパスは緑豊かで東京ドーム13個分の広さ。チャペル前にある木はクリスマスイルミネーションで輝いていました。

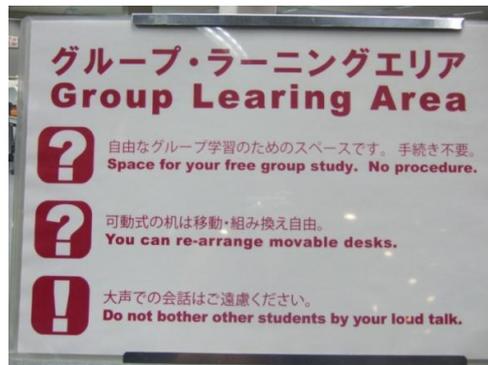


<図書館>

図書館は1960年建設。2000年に新図書館が建てられ2つの棟を連結した構造になっています。蔵書冊数は約75万冊。東経大と同じくらいの蔵書冊数です。



新図書館設立時、日本の図書館では初の自動化書庫を導入。グループラーニングエリア、ライティングサポートデスク、飲み物を持ちこめるエリアなど、閲覧室以外に様々な空間があります。



書棚には、和書と洋書が一緒に並んでいます。館内の掲示物も日本語と英語が併記されていて、旅行ガイドブックは日本語の「地球の歩き方」だけではなく英語の「Lonely Planet」も。日本語と英語の絵本・児童書もありました。



閲覧室の一角には障子で囲まれた落ち着いた空間があり、そこには学生が世界を旅した際の思い出やおすすめの宿泊施設情報などを書き記した「旅ノート」がありました。

ICUの一人あたりの年間貸出冊数は 48.2 冊 (2012 年度)。試験の時期は、個人閲覧席が満席になるそうです。

このほか、館内にはジョセフ・バンクス卿の植物写生画が展示されていました。バンクスは 1768 年からキャプテン・クック第一回世界探検航海に同行した科学班責任者。まだ写真のなかった時代ですから、航海ではスケッチで記録を残しました。国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館では 2014 年 1 月 7 日からは「特別展 ICU 図書館所蔵 バンクス植物図譜 III」を開催するそうです。



参考 国際基督教大学 Web サイト <http://www.icu.ac.jp/>

(図書課 A)

武蔵野美術大学

図書館、美術館、博物館の各機能をあわせ持つ「武蔵野美術大学 美術館・図書館」。
その名の通り、美術館と図書館が一体となっています。



【左・図書館外観】

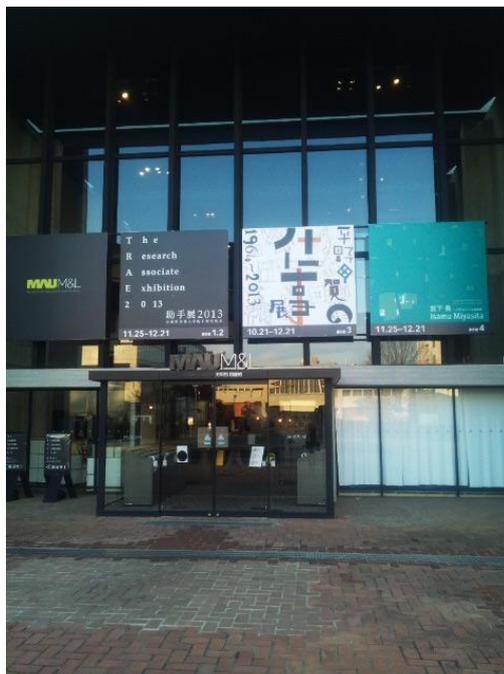
ガラス張りの印象的な外観で、とても美しい建物です。美術・デザインの専門書を中心に 28 万冊の図書、約 5000 タイトルの雑誌を所蔵。美術系大学としては日本有数の規模です。

「ユビキタスライブラリー」機能や「ラーニング・コモンズ」の環境、無線 LAN のインフラ等が整備されています。また、グループ学習室、大学院生・研究者用の個室を備え、その先端的な機能で武蔵野美術大学の教育研究を支えています。

【右・美術館棟】

資料の収集・保存だけでなく、展覧会の開催などの活発な情報発信を行っています。入館は無料。

美術館では年間 10 本以上の展覧会を行っています。武蔵野美術大学に足を運んだ際には、ぜひ立ち寄ってみてください。





【2F 学習フロア】

壁面がすべて書棚となっており、歩いて回るだけでも楽しい。

資料は0から9までのエリアに並べられています。

0. 総記／1. 哲学／2. 歴史／3. 社会科学
4. 自然科学／5. 技術／6. 産業／7. 芸術
8. 言語／9. 文学

TAC 学生としての貸出冊数は5冊。

貸出期間は14日間。



【階段】

2F 学習フロアと1F 研究フロアをつなぐ階段。

明るく開放的です。

研究フロアには絵本ギャラリー、カタログギャラリー、ブックギャラリー、卒制作品集などがあります。また、大学院生個室、研究個室、研究・授業特別閲覧室、展示室といった施設もあります。

研究フロア奥の展覧会カタログなどがある「準貴重書エリア」に入る際は、受付カウンター裏にあるロッカーに荷物を預けましょう。

図書館・美術館には他にもイメージライブラリーや民俗資料館などが付属しています。

これら4つのセクションが、それぞれの所蔵する資料を有機的に結び、「美と知の複合施設」として機能しているのです。すべてのセクションをじっくり見て回るには半日ほどかかるかもしれません。今回の取材では時間の経つのを忘れて楽しく見学してきました。

(編集長 おおたけ)

津田塾大学

TAC（多摩アカデミックコンソーシアム）図書館の1つとして、小平市にある津田塾大学図書館を見学してきました。

まず、図書館にお邪魔する前に、正門入ってすぐにある守衛所で図書館を利用したい旨を伝え、学生証を見せる必要があります。女子大学で中に寮もあるので、警備が厳しいそうです！

さて、実際の図書館ですが、外観はこのようになっています。（左の写真）



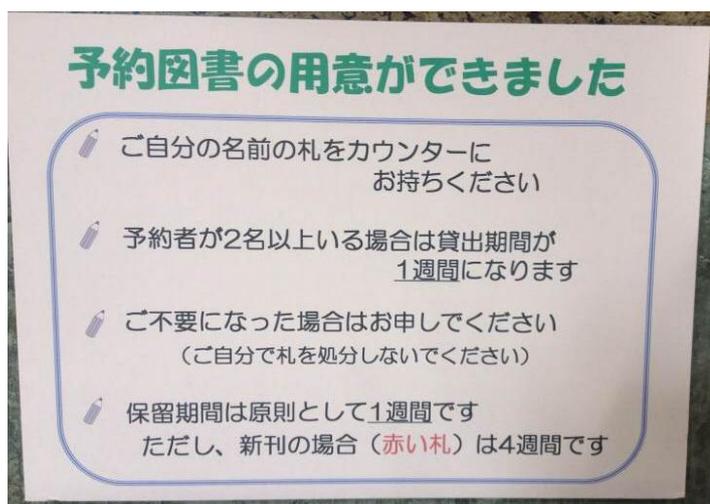
入ってすぐにあるのが、南閲覧室です。そこは1954年に、図書館として作られた建物になります。そして、東側書庫、北閲覧室+西側書庫と増築されたそうです。

書庫は5階建てになっており、積層式なので天井はやや低く、東京経済大学の書庫を思い出させる作りになっていました。また、中2階が存在しており、そこには津田塾大学の創設者である津田梅子さんに関する資料室があります。ここは一般の方でも入って見学することができるそうです。

また、津田塾大学の図書館には、来年に完成する東経大の新図書館にも導入される自動貸出機が設置されています。（右の写真がその機械になります。）この機械は、津田塾大学図書館の貸し出しカードを持っているれば誰でも利用ができるそうです。



他にも、入ってすぐのレファレンスカウンター前では、変わった工夫がされていました。それは、予約した本が用意できたことをお知らせするために、予約した者の名前が書かれた札をボードに貼るという工夫です。この札を持って、カウンターに行くと予約していた本を受け取ることができるということです（右の写真が、その説明になります）。現在はこちらのボードのほかに、予約図書について利用者にお知らせのメールが届き、図書館ホームページの「マイライブラリ」では、利用者自身で確認することもできます。



今回訪れてみて、図書館の内部はかなり東経大の書庫に似ていると感じました。しかし、東経大の書庫と違い、誰でも自由に中の資料を見ることができました。また、新聞の種類が多く、日本の新聞や英字新聞のみならず、中国の新聞など世界各国の新聞が置いてあり、とても驚きました。女性や女性問題についての資料も豊富にありました。

普段、なかなか訪れることのできない他大学の図書館を見学することで、自分の通っている大学の蔵書数の多さを実感しました。また、来年に完成する図書館への期待感が高まりました。

みなさんも、この春休みにTACの図書館へ足を運んでみてください。

(図書部員 壱)

こちらのTAC加盟大学の図書館は、次号以降で紹介する予定です

国立音楽大学

1926年創立の「東京高等音楽学院」をルーツとし、1950年に新制大学として発足しました。以来半世紀、音楽界、および音楽教育界に数多くの卒業生を送り出してきました。

図書館では幅広く音楽資料を収集し、音楽研究や基礎資料の編纂・刊行、データベースの公開を行っています。音楽関係書籍、楽譜、音楽関係雑誌、録音資料、映像資料など多数のコレクションがあります。

東京外国語大学

東京外国語大学では、日本を含む世界諸地域の言語・文化・社会に関して総合的な教育・研究を行っています。1949年に設置。東京都府中市にある国立大学です。

図書館の所蔵資料は、日本語図書・英語図書が合わせて全体の40%、英語以外のヨーロッパ系言語図書、日本語以外のアジア系言語図書がそれぞれ約30%ずつという、特徴のある蔵書構成になっています。

参考 国立音楽大学 Web サイト <http://www.kunitachi.ac.jp>

東京外国語大学 Web サイト <http://www.tufs.ac.jp/>

TAC 図書館部会「2013年度 TAC 図書館利用ガイドブック」

TAC図書館インフォメーション

TAC図書館のサービス

みなさんをサポートする便利なサービスを行っています。

- ・貸出希望図書取寄せサービス (TLLサービス)
- ・TACホームページにある図書館総合検索(TACOPAC) <http://www-lib.icu.ac.jp/TAC/>
- ・貸出・返却サービス
- ・貸出希望図書取寄せサービス (TLLサービス)
- ・データベース共有利用サービス

国際基督教大学

貸出期間/冊数：1ヶ月 / 3冊

貸出対象資料：開架図書、自動化書庫資料

注意事項：延滞中の新規貸出不可
延滞料 1日1冊10円

所在：

〒181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

国立音楽大学

貸出期間/冊数：和図書、楽譜は2週間
洋書は1ヶ月 / 6冊

貸出対象資料：図書、楽譜

注意事項：延滞中の新規貸出不可

所在：

〒190-8520 東京都立川市柏町 5-5-1

津田塾大学

貸出期間/冊数：2週間 / 5冊

貸出対象資料：開架書庫内図書

注意事項：延滞中の新規貸出不可
延滞罰則 返却翌日より貸出可
AVライブラリーの利用不可

所在：

〒187-8577 東京都小平市津田町 2-1-1

武蔵野美術大学

貸出期間/冊数：2週間 / 5冊

貸出対象資料：開架図書

注意事項：延滞中の新規貸出不可
延滞罰則 延滞日数分の貸出停止

所在：

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

東京外国語大学

詳細は、TACホームページ、または
パンフレットをご覧ください。

(1月中旬に掲載・発行する予定です)

所在：

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

- ・開館日、開館時間、利用方法などは、各大学の図書館 Web サイトを参照してください。

- ・「TAC 図書館利用案内」は、図書館カウンターで配布しています。

図書館フォトコンテスト



2014年度の新図書館竣工を前に、現図書館は今年度限りでその役目を終えます。そこで、現在の図書館の姿を記憶と記録に残すために、図書部主催の図書館フォトコンテストを開催しました。

応募されたのは26作品。普段何気なく見ている本棚や地下にある書庫が、絵になる空間として映し出されています。外観を撮影した作品は、昼間や夕方など、時間によって異なる図書館の姿を捉えていました。

葵祭初日から約2週間、校内に応募作品を展示し、学内外の多くの方々に投票していただきました。その結果、金賞・銀賞が決定し、さらに図書館長賞・特別賞も選ばれました。12月2日(月)には表彰式が行われ、大森賢二図書館長より賞状と副賞が授与されました。入賞作品をご紹介します。



金賞 「探していた一冊」(サトシさん)
探しに探した一冊を手にとった一瞬を表現しました。



銀賞 「静かな場所」(持田さん)
図書館のありのままの姿を残すことに全力を尽くしました。



図書館長賞 「ぐるり」(R. Mさん)

図書館の活動の記録の一つになれば幸いです。(人でにぎやかな所も撮りたかったのですが、難しかったので)



特別賞 「新図書館へ」(村石さん)

現図書館から新図書館へ移行する道のようなイメージで撮りました。

普段、入ることのない書庫の写真を撮れて良かったです。

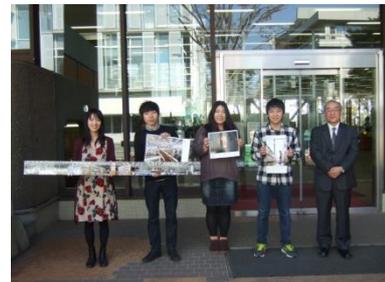
表彰式

大森賢二図書館長より、入賞した4名に賞状・副賞の授与が行われました。入賞者からは写真と図書館への思いが語られました。

<入賞者の声>

金賞(サトシさん)

金賞をとることができて嬉しいです。思い出として使ってもらいたいです。



銀賞(持田さん)

図書館には4,5回しか来たことがないのですが、最後に関わることができてよかったです。

図書館長賞(R. Mさん)

この建物が図書館として使われていたことを記録に残すことができるととても嬉しいです。

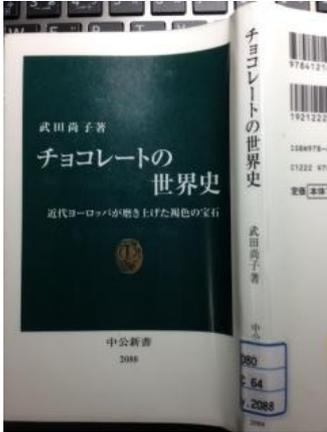
特別賞(村石さん)

書庫は普段入らないところですが、一年次の図書館見学で誰もが訪れたことがあるはず。その場所を撮ることができてよかったです。

(図書館 A)

読書案内

甘くて苦いチョコレート



チョコレートの世界史
著者：武田尚子
中公新書 2088
780円+税

チョコレートは元々液体（！）で、しかもとても苦い（！）高級品の飲み物（！）だったのです。

そんなチョコレートが、いったいどのようにして今のチョコレートとなり、日常生活に浸透したのかわかる一冊です。

戦争や貿易、さらに職業倫理感や広告戦略に至るまでチョコレートを軸に話を進めているので、とても面白く読むことができます。

請求番号 /080/C 64/v. 2088

資料ID 0825768

所 在 メインフロア 新書文庫 B



チョコレートの真実
著者：キャロル・オフ
翻訳：北村陽子
英治出版
1800円+税

チョコレートが好きな人は、読まないほうがいいのかもかもしれません。

私達が普段なにげなく食べている甘いチョコレートは、西アフリカの児童の奴隷的労働と引き換えに手に入れたものなのです。

カカオ農園で働いている子供たちは、自分が収穫したものが何になるのか知らず、学校にも通えないのです。

チョコレートを支えているのは、圧倒的な貧困と搾取なのです。

請求番号 /617.3/0 19c/

資料ID 0662576

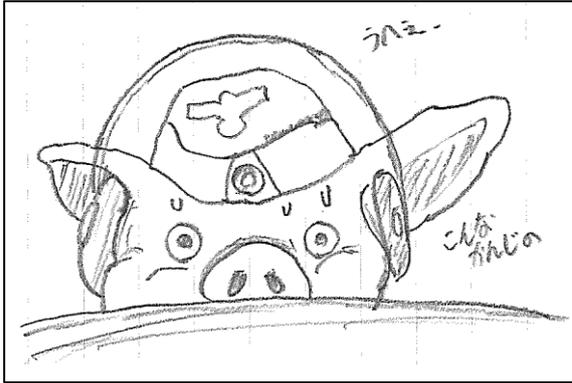
所 在 メインフロア 展示資料

(図書部員 イノウエ)

宮崎駿の妄想ノート『泥まみれの虎』

アカデミー賞監督の描く戦争マンガ

宮崎駿監督と言えば、先日引退を表明した事でニュース等で話題になりました。『となりのトトロ』『魔女の宅急便』『もののけ姫』や『千と千尋の神隠し』を生み出した事で有名ですが、そのほか戦争漫画も長く書き続けていました。この本は第2次世界大戦中のドイツ軍の戦車長オットー・カリウスの伝記「Tiger in the Mud」を元にしたマンガです。カリウスは150両以上の敵戦車を撃破したエースなのですが、ここで描かれる主人公は・・・なんと豚です。豚。(∞∞)『紅の豚』も主人公が豚でしたが、この作品は出演者が全員豚。なので戦争の血なまぐさはあまり感じません。



カリウスは150両以上の敵戦車を撃破したエースなのですが、ここで描かれる主人公は・・・なんと豚です。豚。(∞∞)『紅の豚』も主人公が豚でしたが、この作品は出演者が全員豚。なので戦争の血なまぐさはあまり感じません。

カリウス(豚)は若干22歳なのですが、戦車長として4人の部下(豚)を率いてソビエト軍(これも豚。しつこいか)と戦います。

戦うのは敵ばかりではありません。頼りにならない仲間たち、イヤな上司、飢えや寒さ。若干22歳の青年が、知恵と勇気と友情で生き残っていくさまは、男ならちょっとココロにくるものがあるかもしれません。でも戦争美化や賛美している感じはありません。風呂には入れずノミやシラミにまみれる日常、睡眠や食料も十分でない困窮生活も描いているので「うんざり感」満載です。そんな「冒険心」と「戦争嫌悪」が垣間見える宮崎監督らしい作品だと思います。

(部長)



＜評論＞ 娯楽小説の愉しみ

キャラノベという語をご存知だろうか。「夜は短し歩けよ乙女」「謎解きはディナーのあとで」「ガリレオ」「ビブリア古書堂の事件手帖」「船を編む」等がその代表例である。読んだことはなくても、タイトルに見覚えのある方は多いだろう。現在、書店の新刊コーナーには、数多くのキャラノベが賑やかに陳列され、人気を博している。その理由はどこにあるのか。今回は、昨今の出版業界で脚光を浴びているキャラノベの実態に迫った。



「始めにキャラクターありき」

キャラノベとは何か。

キャラクターノベルという言葉のとおり、キャラノベの最大の特徴は「キャラクター」にある。冒頭で例示した作品群においても、偏屈な天才物理学者(ガリレオ)、朴訥な辞書編集者(船を編む)など、魅力的で個性的なキャラクターがまず目につく。また、その多くがマンガ調のイラスト装丁を採用していることからわかるとおり、構成の主眼はとにかく「キャラクターを立てる」ことだ。つまりキャラノベは、その特徴が作品内容ではなく、作品の形式にあるということになる。連作短篇形式もその一例である。キャラノベはこの形式をとるものが多い。その理由は、アニメ調のイラスト装丁と同じく、キャラクターを立てるためだ。壮大な長篇よりも、一話完結型の連作短篇の方が、主人公やそれぞれの登場人物に焦点を当てて小説を執筆するのに適している。

では小説の内容についてはどうか。共通点としては、純文学ほど堅くなく、ライトノベルほど軽くない、という点で、両者の中間に位置しているといえるだろう。

さて、こうしたキャラノベが人気を集めるようになった背景には、昨今の出版事情が深く関わっていると考えることができる。近年、複数のメディアを通じて展開される広告手法「メディアミックス」は、ドラマ、映画、アニメなど各分野で活発化している。キャラノベは、このメディアミックス展開に最適な媒体であるといえるだろう。キャラノベ本来のストーリーの読みやすさに加え、漫画的に可視化されたキャラクター像を持つ登場人物は映像化しやすい。また、主要キャラクターを据えさえすれば、続編・スピンオフ作品を量産することも難しくない。人気に火がつけば、その相乗効果は計り知れないだろう。実際に、ベストセラーとなったキャラノベは、その多くがドラマ・映画化、コミカライズ等されている。

昨今の新刊書にキャラノベが散見される理由には、おそらく、こうした背景があるに違

いない。メディアミックスの活発化・流行を考慮すれば、当初からそれを見込んで、意図的にキャラノベの形式を採用して出版される作品があっても不思議ではない。アニメ調イラスト装丁と連作短篇形式を採用した小説が急増したのは、作家の自発性はもちろんだが、出版業界がそれを望んでいるという一面もある。



かつて19世紀末のイギリスでも、キャラノベの流行があった。19世紀における英国出版事情を繙いてみよう。

19世紀の英国文壇には、同時代のアメリカのポー、フランスのモーパッサン、ロシアのチェホフのような、短篇の名手がいなかったと言われている。その理由は、19世紀初頭のウォルター・スコット以来の「長篇小説の分冊刊行」というイギリス独自の文学的伝統にある。当時のイギリスにおいて、小説といえば長篇小説であり、それを分冊刊行するというのが文壇の伝統だった。そのため、19世紀ヴィクトリア朝を代表する作家のディケンズ、サッカレーも、この慣習に従って長篇小説を分冊刊行していたし、その二大巨頭の逝去後、英国文壇に確固たる地位を築いたジョージ・エリオット、アントニー・トロロープ、そしてジョージ・メレディス等も、やはり、分冊に値する分量の長篇小説を執筆しているのである。しかし、この長編小説分冊刊行の伝統は、長らくイギリスの作家を苦しめた。なぜなら、分冊するほどの長編はあまりに長大すぎるため、プロットを長引かせる、余計なエピソードを盛り込む、など、作品を冗長にせざるを得ないこともしばしばだったのである。それでもなお、こうした伝統が長らく続いた背景には、貸本屋の存在が大きい。当時のイギリスの読者層は中流階級以上であって、彼らは主に貸本屋を介して読書を嗜んでいた。貸本屋としては、一冊だけ貸し出すよりも、分冊で数冊貸し出す方が利益が出る。こうした理由から、長編小説の分冊刊行という慣習が根付いてしまったともいえる。

このように、19世紀英国文壇の主流は長篇小説だった。短篇小説の地位は低く、ましてや、キャラノベのような中間小説の入り込む余地などありそうにない。しかし、この事情は1880年頃に一変するのである。

発端は、1870年に施行された初等教育法だ。これによって、読み書きそろばん(reading. Writing. arithmetic)、いわゆる「3R」を身につけた若者が庶民の中にも増え始め、出版業界に新たな市場を生み出したのだ。この新しい読者層の誕生に、イギリスの出版者たちが色めきたったことは想像に難くない。ニューズという男もまた、この市場に目をつけた者の一人である。

ジョージ・ニューズ、彼はベジタリアンレストランの経営で得た資本をもとに、出版業界へ飛び込み、1881年に「ティット・ビッツ」を創刊する。一般読者の投書記事から成るこの大衆週刊誌は、新しい読者層の需要に応じて大成功を収めた。その結果、模倣誌が

相次ぎ、イギリスの出版事情は様変わりすることになる。

ニューズは「ティット・ビッツ」に続き、1891年、「ストランド・マガジン」を創刊した。これは近代総合雑誌の手本とも言うべき大衆雑誌だ。6ペンスという低価格、軽めのフィクションと愉快的ノンフィクションの豊富さ、可能な限り多くのイラスト掲載——といったセールスポイントを武器に、「ストランド・マガジン」は爆発的な売れ行きを示した。そして、この雑誌に掲載されたある作品が、当時のイギリスにおけるキャラノベ人気の火付け役となるのである。

「初歩的なことだよ、ワトスン君」



コナン・ドイルによる「シャーロック・ホームズシリーズ」は「ストランド・マガジン」1891年7月号に第一話が掲載された。これがたいへんな好評を博し、雑誌の売れ行きを数倍に跳ね上げさせたとも言われている。その人気は21世紀になっても衰えることがなく、BBCドラマ「SHERLOCK」や、ガイ・リッチー監督による映画「Sherlock Holmes: A Game of Shadows」など、未だにメディアミックス展開が続いている。キャラノベとしては、おそらく空前絶後のヒット作だろう。

その魅力は何と言っても、「シャーロック・ホームズ」というキャラクターにある。ホームズ愛好家は世界各地におり、彼らはシャーロキアンという名で知られている。彼らは、一般的なファンクラブ会員とは訳が違い、驚くべきことにホームズを「実在の人物」とみなして、シャーロック・ホームズシリーズを正典と呼び、さまざまな研究活動を行っているという。もちろん冗談半分であるが、さすが世界のキャラノベともなれば、その愛好家も筋金入りだ。

19世紀末当時、このホームズ人気に他誌が黙っているはずはなかった。各紙、こぞって推理小説を——それも、個性的な名探偵が登場する推理小説を——続々と掲載し始めたのである。かくしてキャラノベ推理小説のブームが幕を開けた。思考機械ヴァン・ドーゼン、隅の老人、ピーター・ウィムジイ卿など、「シャーロック・ホームズのライヴァルたち」と呼ばれる数々の名探偵たちが、その頭脳を競い合うことになるのである。

<おわりに>

ドイルは、「ストランド・マガジン」に掲載する前に「シャーロック・ホームズシリーズ」の長篇を二作、発表している。「緋色の研究」「四つの署名」いずれも人気は芳しくなかった。人気になったのは、ストランド・マガジンに短篇シリーズとして掲載してからのことである。これはとても興味深い。ホームズが世界的な人気を得た背景には、前述のとおり、19世紀当時の出版事情が大きく影響している。ホームズの爆発的人気は、決してドイル個人の方のみによるものではなく、当時の英国社会の世相を反映した現象であるとも考えることができる。当時の庶民の識字率の向上に伴って誕生した「新しい読者」が求めたのは、「難解長大ではなく、暇つぶしに最適で、一話ほど読み飛ばしても問題のない、ちょっと

した読み物」だった。シャーロック・ホームズはまさにそれだったのだ。

おもしろいことに、当時のイギリスでは、娯楽小説を載せる大衆紙が急増したことで、「短篇不足」という現象が起きている。それまで仕事の少なかつた中堅作家のもとには、各出版社から短篇の依頼が相次いだという。その結果、19世紀末のイギリスでは短編作品の発表が激増するのである。文壇事情ではなく出版事情によって、それまで長篇一辺倒だったイギリスの作家たちが短篇を書くようになったというのは、とても興味深い話だ。

娯楽小説の流行り廃りは、時代の世相を反映する。現代の日本においても例外ではない。メディアミックスの活発化、電子書籍の台頭、SNSの普及、長引く出版不況、本屋大賞の設立など、さまざまな要因が重なって、その上に現在のキャラノベの人気は成り立っている。娯楽小説を手にとる際には、こうした当世出版事情にも思いを馳せてみてはいかがだろうか。

(編集長 おおたけ)

<参考文献>

- ジョージ・ギッシング (1997) 「ギッシング短編集」 小池滋訳. 岩波書店
サマセット・モーム (1994) 「コスモポリタンズ」 龍口直太郎訳. 筑摩書房
辻照彦 (2008) 「初期ストランド・マガジンの広告」 学術出版会
ダニエル・スタシャワー (2010) 「コナン・ドイル伝」 日暮雅通訳. 東洋書林

東経大図書館について

(『東京経済大学』八十年史より。一部現状にあわせて文章を変更しました)

大学における図書館は、その教育と研究の中心的施設である。当時の旧図書館の老朽化にともない新築された図書館は、鬼頭梓氏の設計、竹中工務店の施工により総工費 3 億 5 千万円をかけて、昭和 43 (1968) 年 3 月に竣工した。この図書館は、崖線上の斜面をたくみに利用して建築されており、北側正面からは平屋建てであるが、南側からは 3 階建ての構造となっている。延 5,000 平方メートルの面積には、1 階のメインフロアを中心として、大小 3 つの閲覧室、共同研究室 3 室、3 層構造の書庫、事務室をもっている。現在は、9 名の専任職員を中心に運営し、午前 9 時から午後 9 時 10 分まで開館している。蔵書は和洋約 75 万冊、年間約 1 万冊の割合で増加している。特色のあるコレクションとしては、故三橋猛雄氏が家業のかたわら営々として収集した数千点にのぼる明治前期の刊行物を収めた「三橋文庫」、イギリス 18～19 世紀に活躍した異色の貴族経済学者・第 8 代ローダゲール伯 (英国 1759～1839) が集めた「ローダゲール文庫」、朝鮮関係文献を収める「桜井文庫」、
「四方博文庫」、さらにドイツ会社史などがある。

本図書館は竣工した年に日本建築学会の作品賞を受賞し、これは大学図書館としては初めてのことであった。またノースウェスタン大学のセオドア・ウェルチ教授は、その著書『日本の図書館』の中で、「一般にイマジネーションに欠ける日本の大学図書館建築の中にあって、エキサイティングな例外は東京経済大学図書館である。」と述べている。

(部長)



編集余滴

現代法学部4年のおおたけです。

今回の図書部だよりの編集長を務めさせていただきました。

私は図書部員としては新参です。図書部に入部したのは、前号の図書部だよりの創刊号を読んだことがきっかけでした。完成前の新図書館に立ち入ることができたり、他大学図書館を見学できたり、図書部員だからこそ体験できたことが多くあり、楽しかったです。

さて、今回の図書部だよりは、前号よりも頁数が倍増しています。そのぶん読みごたえのあるものとなったのではないのでしょうか。読者のみなさんが本に親しむきっかけとなれば幸いです。もうすぐ春休み。今年はいろいろな本を読んでみてはいかがでしょうか。大学生になると、読書が学術書中心になります。勉強が進めば進むほど、どんどん「読むべき本」が積み重なっていく。しかし、それではあまりに味気ない。勉強はもちろんですが、好奇心の赴くままに、ジャンルにこだわらず、大いに濫読することをおすすめします。今年の春は、TACの各図書館にもぜひ足を運んでみてくださいね。

最後に、寄稿者の方々、TAC図書館職員の方々をはじめ、全ての関係者に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。



図書館からのお知らせ

<新図書館への移転に伴う閉館について>

新図書館への移転及び開館準備のため、以下の期間、図書館は閉館します。

多大なご不便をおかけすることとなりますが、ご理解と協力のほどよろしくお願い申し上げます。

閉館 : 2014年2月3日(月)～3月31日(月)

<新図書館への入館について>

2014年4月開館予定の新図書館では、入館時に身分証による個人認証が必要となります。ご来館の際は、身分証を必ず携帯するようにしてください。



詳細は図書館Webサイト <http://www.tku.ac.jp/library/> をご覧ください。

『図書部だより Vol.2』

2014年1月発行

発行：東京経済大学図書部